

J. H. de Haas 著／高橋孝文訳

乳 児 の 発 達——写真でみる0歳児——

神奈川県総合リハセンター 安 藤 徳 彦

見るからに可愛い子供達の写真が、これだけ並んでいるのを眺めるだけでも、楽しい本である。さぞや子供が好きな人々によって、この本は作成されたのであろうと思われる。そんな気持で一枚一枚の写真を順々に眺めていくうちに、子供達の自然な運動発達の様子が理解できるように良く編集された本である。

例えば、移動動作についてみると、手足を縮めたままで寝ていた子供が、腹ばいで頭を持ち上げるようになり、寝返りをし、支えれば坐るようになり、つかまり立ちと四ツ這いをし、やがて立って、歩くように

なっていく過程が写真で克明に観察されており、また、目の動きと手の動作についても、目で追い、手を伸して取ろうとし、やがてつかみ、左右の手で持ちかえ、つまんで細かい作業も出来るようになる発達過程が非常に理解しやすく表現されている。

しかも、例えば寝返り動作についてみると最初のものは頸部立ち直り反射を主体としたもので、緊張性頸部反射もなお残存しており、あとでは体幹立ち直り反応で寝返りが出来るようになることを漏らさず写真は撮し出している。

著者はこの本によって、生後12カ月迄の乳幼児発達の連続性や一定性を示し、さまざまな運動機能の個性や共通性をあらわそうとしたと述べているが、その意図は見事に成功していると思う。欲を言えば、個々の姿勢、運動時の身体各部の肢位を発達神経学的にもう少し詳しく、やさしく解説してもらえたら、と思わぬでもないが、読者対象を主として子を持つ両親においたらしいことを考えれば、訳者がつけられた註以上の解説はかえって理解を困難にしてしまうのかもしれない。

脳性麻痺に対する超早期療育の効果と必要性が叫ばれている今日、この本を訳された高橋先生に心から敬意を表する。

(A 5 判, 126頁, 1,500円, 医歯薬出版刊)